行幸坂

江戸時代（1603–1968）の頃、熊本の山崎地区から入城するには、幅の狭い木橋を渡った上で、城の南側の坂道を登り、大手門までたどり着く必要がありました。しかし、明治時代（1868–1912）になると、重要人物が駕籠や乗馬ではなく馬車で移動するようになったため、1902年の明治天皇の行幸に合わせて、道は直線化され、古い木橋は幅の広い新しい橋に架け替えられました。また、南側の坂道も改修され、道の両側には桜の木が植えられました。新しい橋は「行幸橋」と呼ばれ、城へ続く道は「行幸坂」と名付けられました。